

【研究課題名】

国際連携建築都市デザインスタジオ AIAC などを通じた大学**連携の環境**デザイン教育活動

【研究代表者】

大学院政策・メディア研究科 池田靖史

【研究の背景】

建築や都市などにおいてサステナブルな環境で地域の魅力を高めるための具体的な方策が望まれている事が全世界的な課題であることは言うまでもない。そのためには地球環境的な幅広い視点が必要とされ、従来の専門分野的な建築・都市デザイン教育の枠を大きく超えた国際的な人材育成が可能な教育連携が必要である。AIAC(**L'Atelier International de l'Architecture Construite**)は15年以上も毎年開催されている国際的な大学間連携による建築・都市環境のデザイン演習の共同プログラムである。世界中の有名大学で学ぶ建築家の卵たちが毎年1つの地域を選んで都市空間とは何かをデザイン提案で競いながら学ぶ試みで、SFC環境デザインガバナンスプログラムでは2013年度から参加を決め、大学院科目「応用環境デザイン(都市と環境)」のデザイン演習内容をそのままこれに当てる事とした。

AIACの特徴は毎年、調査のためのワークショップに参加教員と学生が世界中から集い、特定の地域の課題と可能性を共有した数ヶ月後に、具体的な環境デザイン提案の発表のために、再度ワークショップを開催して意見交換を幅広く行ったうえ、優秀作品表彰までを行う事にある。2013年度のAIACは初参加となった慶應大学が東京の日本橋地区を対象に敷地の調査と学術的国際交流のために世界中から100名以上の学生を迎え、優秀賞・最優秀賞を選ぶ審査はパリのユネスコ本部において行われた。2014年度は南米のコロンビアに課題敷地が選ばれデザインコンクールはベネチア建築大学にて開催されている。

【研究の目的】

環境デザインに関する国際的な共同に基づく本研究活動は3つの異なる側面での成果を生む事が期待されている。1つ目はこの演習がレベルの高い競争であることから、国際的な視点を持つ環境デザイン学生を相互作用的に刺激し教育的な効果を得る事、2つ目に他にない国際的に大きな共同研究組織によって行われる事から、環境デザインの技術やその教育方法などについて、相互の比較や参照などによる学術的な発展が期待できること。3つ目に提案された作品が現実の課題への実践的な解決策をフレッシュな視点から提示できるため、現実の地域開発自体にも参考にできる点成果を生むことがで

き、本塾も積極的な参加によって共同学術活動のその効果を最大限に引き出し本塾も積極的な参加によって共同学術活動のその効果を最大限に引き出すことが目的である。

【活動成果報告】

(1) 現地調査ワークショップ

期間 2014年 3月30日～4月3日

ベトナム ハノイ市 国立土木技術大学 (NUCE)

本年度の演習課題はベトナムの首都ハノイ旧市街地を対象に1000年以上の歴史とフランス領統治という複雑な背景持ちながら、今も成長し続ける活気あふれる旧市街のドンシャン市場周辺の都市デザイン方針について取り組んだ。ハノイの旧市街内にあるドンシャン市場はフランス統治時代に中央市場として建設されたがその後火事で消失して一部を残し立て替えられた。現在も衣料品などについてハノイを中心としたベトナム北部の物流を支える基地として使われる一方、近年は外国人観光客なども増えて様々な商品が扱われにぎわいを見せている。その周囲の高密度な市街地ではショップハウスと呼ばれる伝統的な町家形式を残しながら近代都市とは全く異なる自律的な成長の姿が特徴的であるが、衛生面や環境面などには課題を抱えている。こうした歴史的で自己組織的な市街地の魅力や活力を失う事無く、近代的な生活の利便性も導入する事が可能なかどうかを課題として捉えられている。ここについて様々な国からの違った視点での提案が集まる事が期待されており、本塾としても積極的な参加によって共同学術活動のその効果を最大限に引き出すことが目的である。



[Introduction](#) | [News](#) | [Program](#) | [Library](#) | [Download](#) | [Gallery](#)



2015年3月ハノイ国立土木技術大学にて行われたワークショップ



ハノイ旧市街地フィールドワーク



ハノイでのワークショップの様子

(2) 提案の作成

その後政策メディア研究科修士課程の「応用環境デザイン(都市と環境)」の授業として具体的な環境デザイン提案作成をおこなった



大学政策メディア研究科修士2年の入矢佳紀さんの提案

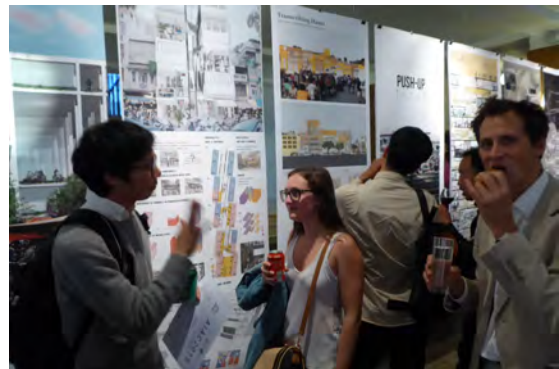
(3) デザイン提案講評会の開催と参加

期間 2014年 9月17日～9月19日

スペイン マドリッド大学建築学部

慶應大学参加者 教員2名 政策メディア研究科修士課程学生4名

提案の発表と意見交換のためにイタリアのベネチアにおいて国際建築ビエンナーレに合わせて学生デザインコンクールの開催に参加した。結果として最優秀は逃したが8名の佳作の一つとして慶應義塾大学政策メディア研究科修士2年の入矢佳紀さんの提案が選ばれた



マドリッド大学建築学部での作品発表の様子